

I 研修体系

センター研修 … 各課（室）公所が一体となってOJTを支える集合型の校外研修

1 「センター研修2019」の基本方針

「仙台市立学校教職員人材育成基本方針」（H29.3）に基づき、教職員のキャリアステージに応じた研修の体系化と各課（室）公所で担当している研修の一元化を図り、各学校でのOJT*₁を支えます。これらの取組により、教職員としての専門性や能力及び指導力の向上を目指し、研修を推進していきます。

(1) 「求められる教職員（管理職・教員・学校栄養職員・事務職員）の姿と力量」の明確化と研修体系に基づく研修の充実

「仙台版・いきいき教職員づくり研修構想～求められる管理職・教員（教諭、養護教諭、栄養教諭）・学校栄養職員・事務職員の姿と力量～」では、本市の教職員として求められる姿や力量を明らかにして示しました。これまでの管理職と教員の力量要素を仙台市立学校教職員人材育成基本方針と仙台市教員育成協議会の協議に基づき再編成するとともに、新たに指標を作成しました。それを基に各課（室）公所における全体の研修を見直し、研修体系の構築を図っています。

(2) 「センター研修」の精選と質の向上

「センター研修」とは、教育委員会の各課（室）公所が一体となって学校でのOJTを支える集合型の校外研修の名称です。「センター研修」の学びを学校でのOJTに生かすことができるよう、各課（室）公所が担当する研修の融合や統合化に努め、研修内容の検討及び精選を行っています。『センター研修2019』では、各課（室）公所の研修を網羅するとともに、それらのねらいや内容、日程、回数、担当課（室）公所等を明示しています。

*1 OJTとは

OJT (on-the-job training)

職務遂行等に必要力量の育成を図るための校内における研修並びに同僚間による学び合いや教え合い

(3) 学校でのOJTや自己啓発等への支援の充実

これまで各学校では、教師力向上へ向けて積極的にOJTに取り組んできました。教育センターは、調査研究などを通して得られた成果を各教員がOJTを推進していく上で活用できる実践例や情報として、Web上で発信しています。また、研究紀要「教育はいま」（第20号～21号）には、仙台市が目指す三つのOJTの方向性も示しています。「多様で多面的なOJT」「同僚性を育むOJT」「OffJT*₂を生かすOJT」の三つを柱とし、学校でのOJTが組織活性化の一助になるようこれからもその取組を支援していきます。

*2: OffJT…校外研修

(4) 訪問研修の実施

平成23年度から教育センターでは「授業づくり訪問」を実施しています。2年間で全ての幼稚園、小中学校、特別支援学校を訪問し、授業力の向上と校内研究の推進を支援しOJTを支えています。

また、授業づくりをはじめ、各学校の課題やニーズに応じて実施する「OJTサポート事業」などにより、各課（室）公所が連携して学校を支援しています。

2 「センター研修」の改善のポイント

教員のキャリアステージに応じた研修の体系化

◇ 「センター研修」の区分

No	研修区分	主な内容
1	基本的な研修1（経験者研修）	経験年数に応じた5年間隔の研修
2	基本的な研修2（管理職等研修）	主に管理職を対象とした研修
3	基本的な研修3（職能研修）	校務分掌・学校代表者等による職能研修
4	授業づくり研修1	基礎的・基本的な研修
5	授業づくり研修2	小中9年間のつながりやスキルアップを意識した研修
6	トピック研修	仙台市の課題や施策等に係る研修
7	機関研修	教育関連機関における実習や演習を通じた研修
8	その他の研修	市費職員等が対象の研修会、協議会、説明会、委員会等
9	発表会等	教育実践研究の成果発表や中央の伝達講習等（発表会、講習会、協議会、説明会、委員会、連絡会、総会等）

(1) 新任から5年目までの教員対象の研修、5年間隔の定期的な研修

「基本的な研修1」は、経験年数に応じた5年間隔の研修の機会を設定しています。「フレッシュ先生研修（1～4年次）」「5年次ブロック研修」のほか「中堅教諭等資質向上研修」「ミドルリーダー研修」「充実期研修（21年次研修）」「発展期研修（26年次研修）」等、キャリアステージに応じた教員としての基盤に立ち、実践的指導力と学校運営力を身に付けた人材を育成する研修を推進します。

(2) 中堅教諭等資質向上研修の実施

教育公務員特例法等の一部改正に伴い、10年経験者研修を中堅教諭等資質向上研修に改め、中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とされる資質の向上を図ることを目的とします。

中堅教諭等資質向上研修Ⅰ(教職経験10年目)	教育公務員としての使命と自覚を新たにするとともに、個々の能力、適性等に応じて、学級経営及び授業構成・評価についての指導力の向上を図ります。			
中堅教諭等資質向上研修Ⅱ(教職経験13年目) ※2019年度中堅教諭等資質向上研修Ⅰ受講生は教職13年目となる2022年度に受講	教育活動やその他の学校運営の円滑かつ効果的な実施において中核的な役割を果たすことが期待される中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とされる資質の向上を図ります。			
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
中堅教諭等資質向上研修Ⅰ	教職経験10年目	教職経験10年目	教職経験10年目	教職経験10年目
※本人及び所属長による申し入れにより受講可能	教職経験9年目	教職経験9年目	教職経験9年目	教職経験9年目
中堅教諭等資質向上研修Ⅱ		教職経験13年目	教職経験13年目	教職経験13年目

← 移行期間 →

(3) 中堅養護教諭資質向上研修の実施

教育公務員特例法等の一部改正に伴い、養護教諭10年経験者研修を中堅養護教諭資質向上研修に改め、9年間の職務経験をもとに、より深い専門的知識の習得や組織的推進力と実践力の更なる向上を図ることを目的とします。

	平成30年度	2019年度	2020年度	2021年度
中堅養護教諭資質向上研修		教職経験10・11年目	教職経験10年目	教職経験10年目
養護教諭10年経験者研修	教職経験11年目			

← 移行期間 →

(4) 管理職研修の充実

「基本的な研修2」は主に管理職を対象とした研修として位置付けています。世代交代の加速化に伴う、学校運営及び学校経営に携わる人材の育成及び管理職の力量育成を図るため、研修の内容等の充実を図っています。(「求められる管理職の姿と力量 2019年度版」次ページ参照)

(5) ミドルリーダー層の教員対象の研修の充実

「基本的な研修3」は校務分掌や学校代表者等による職能研修として位置付けています。「教科指導員研修」を始め、「研究主任研修」「防災主任研修」等を実施しています。

なお、「授業づくり研修2」では、小中9年間のつながりやスキルアップを意識した研修として内容等の充実を図っています。

(6) 若手教員の研修の充実

平成23年度からは、従来の初任者研修を見直し、新任から4年目までの4年間に研修をスライドさせ、児童生徒と向き合う時間や同僚と共に研修する時間の確保を図っています。

さらに、ブロック研修として、新任教員と先輩教員(5年次)が共に学ぶ研修を実施し、5年次教員が新任教員のファシリテーター^{*3}となるよう、若手教員の研修を充実させました。

また、「臨時的任用教員研修」については、新任及び初めて研修受講となる講師のほか、既に過年度において受講した講師も対象として機会の拡充を図っています。

*3：ファシリテーターとは… 学びや成長を促進する役割の人



(7) 学習指導要領の全面実施を見据えた研修の充実

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた研修の実施
 - ・ 授業づくり研修や授業づくり訪問・OJTサポート訪問等でも取り上げていきます。
- ② 「プログラミング教育」研修の実施
 - ・ トピック研修 第1回：プログラミング教育の概要理解、第2回：プログラミング演習
 - ・ 中堅教諭等資質向上研修、ミドルリーダー研修の選択研修として組み込んでいます。
- ③ 「チーム学校」を見据えた事務職員研修の実施
 - ・ 新規採用～5年次学校事務職員研修、学校事務職員研修、パソコン操作研修等を実施します。

3 仙台版・いきいき教職員づくり研修構想

(1) 求められる「管理職」の姿と力量 2019年度版

◆ 仙台市が学校管理職に求める三つの力〔仙台市立学校教職員人材育成基本方針〕と力量構成要素

学校管理職に求められる力量 (いきいき教職員づくり研修構想)			
三つの力	力量	力量構成要素	力量の内容
深い教育力	教育的リーダーシップ	◇教職員の意欲付け	教職員にやる気を起こさせ、協働することを促す力
		◇教職員の意識改革	教職員の意識改革を促す力
		◇職員の力量形成 (職能成長)	効果的な OJT により職員の力量形成をする力
		◇カウンセリング, コーチング	相談にのり所属職員を支えていくことができる力
		◇組織ガバナンス	円滑かつ有効に業務実践することを促す指導・助言の力
		◇教育課程の編成・運用	見通しを持ち、教育計画を活動として具体化する力
		◇児童生徒の理解	児童生徒の心情や行動を理解する力
		◇生徒指導	児童生徒の視点に立って生徒指導を展開する力
		◇教科・領域の指導 (授業)	児童生徒が意欲的に取り組む教科指導等を展開する力
優れたリーダーシップ	人間的リーダーシップ	◇教育に対する使命感・情熱	教育に対する愛情や情熱を基盤とした使命感
		◇高い倫理観	社会人としての良識ある行動 (法令等の遵守)
		◇人間的魅力	幅広い教養や体験に基づく豊かな人間性
		◇社会性, 社会的識見	社会人としての良識ある関わりや行動・判断
		◇しなやかな感性, 柔軟性	多様な考え方を柔軟に受け入れることができる感性
	調整的リーダーシップ	◇継続的な向上心	謙虚さを持って自己研鑽に努め、教職員の範となる姿勢
		◇組織マネジメント	業務推進に向けて人的・物的・財政的資源を組織化する力
		◇職員の同僚性の保証	教職員間の人間関係・同僚性を調整できる力
		◇人間関係の構築 (保護者・地域住民)	保護者、地域住民と望ましい関係を築く力
確かなマネジメント	戦略的リーダーシップ	◇コミュニケーション	自らの考えや思いを的確に伝えるための表現力
		◇連携・折衝・調整力(教育委員会等)	教育委員会や教育関係団体との連携を推進する力
		◇状況・課題の的確な把握	何が学校の課題かを客観的に構造化して分析する力
		◇ビジョン・目的の開発, 組織マネジメント	ビジョンを定め、その具現化に向けた推進計画を策定する力
		◇学校評価・カリキュラムマネジメント	教育計画や実践を的確に評価し、改善していく力
		◇経営実践	自らの教育理念に基づき経営実践する力
		◇スケジュールマネジメント	業務の重点化を図り、計画的に取り組む力
		◇ロジカルシンキング, クリティカルシンキング	物事を論理的・批判的に考えながら、解決を導く力
		◇企画立案・開発	確かな経営理論やアイデアを持って企画を立案・開発する力
		◇自己課題発見	時代の流れを踏まえて、自らの課題を明らかにする力
	管理的リーダーシップ	◇アカウンタビリティ (説明責任)	教育活動の結果について教職の専門性に基づき説明する力
		◇プレゼンテーションスキル	相手方に当方の意志や考え、取組を説得的にアピールする力
		◇業務改革 (効率化)	多忙化解消のため業務の精選・縮減を効果的に行う力
		◇情報活用	情報発信, プレゼンテーション, 情報分析, 情報収集する力
		◇自己評価, 自己認識	自己の業務遂行を評価する力
		◇コンプライアンス	教育法規に関する知識とそれを適切に運用する力
		◇サービス規律の保護	職場のサービス規律の確保と綱紀粛正を醸成する力
◇事務・予算・施設設備・備品の管理	学校事務や予算, 施設等を適正に管理・監督する力		
◇個人情報保護	個人情報等に係る取扱いを職員に周知徹底する力		
◇危機管理	学校の危機を管理する能力		
◇クレーム対応	学校への苦情に対して適切に対応する力		
◇メンタルヘルスマネジメント, 職場安全衛生の指導	職員の心身の健康の保持増進を推進する力		

(2) 求められる「教員」の姿と力量 2019 年度版

仙台市が教員に求める三つの力とキャリアステージに応じて求められる教員の姿

◆ 仙台市が教員に求める三つの力と教員像〔仙台市立学校教職員人材育成基本方針〕

三つの力	教員像
たくましい精神力	☆ 教育者としての高い倫理観と使命感、情熱を持ち続ける教員
豊かな人間性	☆ 人間味にあふれ、児童生徒・保護者・地域・同僚との関わりを大切に続ける教員
確かな指導力	☆ 専門性や実践的な指導力の向上を目指し、学び続ける教員



◆ キャリアステージに応じて求められる教員の姿

求められる力	着任時	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
たくましい精神力	<p>社会人としてのマナーと常識を身に付け、責任感を持って物事に当たり、心身ともに健康である。</p> <p>子どもが好きで、ボランティアなどを通して、子どもに寄り添った関わりができる。</p>	<p>教育公務員としての自覚を持ち、法令等を遵守し、職務を遂行する教員</p> <p>児童生徒のよりよい成長を目指し、様々な課題に真摯に向き合い、進んで教育活動に取り組む教員</p>	<p>教育公務員としての誇りを持ち、法令を遵守し、誠実かつ公正に職務を遂行する教員</p> <p>児童生徒のよりよい成長を目指し、困難な状況にあっても粘り強く教育活動に取り組む教員</p>	<p>教育公務員として自らを厳しく律しつつ、法令遵守の機運を高め、誠実かつ公正に職務を遂行する教員</p> <p>常に児童生徒のよりよい成長を目指し、困難な状況にあっても冷静に周りの教員をリードしながら教育活動に取り組む教員</p>
豊かな人間性	<p>学生生活などで多くの人々と関わりを持ち、コミュニケーションを図りながら協働した活動ができる。</p>	<p>児童生徒や保護者、同僚から信頼されるように社会人として必要な教養の修養に努める教員</p> <p>保護者・地域の声に耳を傾け、良好な関係を築く努力をする教員</p>	<p>広い教養を備え、児童生徒や保護者、同僚から信頼される人間的魅力を身に付けている教員</p> <p>保護者・地域の声に耳を傾け、良好な関係を築き、的確な判断のもと、協働的に関わる教員</p>	<p>豊かな経験に裏打ちされた高い識見を持ち、専門性・人間性を磨き、深い人間的魅力を身に付けている教員</p> <p>学校への社会の要請を自覚し、高い識見を持って家庭・地域との協働をリードする教員</p>
確かな指導力	<p>分からないときは周りに相談するなど、前向きで謙虚な姿勢を持ち学び続けようとする。</p>	<p>広く研修に努め、同僚等の意見を謙虚に受け止め、学び続けようとする教員</p> <p>授業や学級経営についての基礎基本を習得し、児童生徒と共に活動できる教員</p>	<p>より優れたものを目指して、広く研修に努め、他人の意見を謙虚に受け止め学び続ける教員</p> <p>授業や学級経営について専門性を向上させ、児童生徒の活動をリードする教員</p>	<p>常に教師としての在り方を求めながら自己研さんに努め、他の教職員の範となる教員</p> <p>授業や学級経営について指導や助言を行いながら、後進の育成に努める教員</p>

求められる力量		力量構成要素	
たくましい精神力	1	使命感・情熱	
	2	高い倫理観	
	3	向上心	
豊かな人間性	1	人間的な魅力	
	2	社会性・識見	
	3	コミュニケーション	
確かな指導力	授業づくり	1	カリキュラムデザイン (確かな学力, 自分づくり教育, 防災教育)
		2	授業構想
		3	授業実践・評価・改善
		4	授業研究
		5	情報管理 (ICT活用)
	学級づくり	1	児童生徒理解
		2	学級づくり (教室経営, 組織経営)
		3	生徒指導・教育相談
		4	危機管理・安全管理 (いじめ, アレルギー, 緊急対応)
		5	配慮を要する児童生徒の理解と支援
	学校づくり	1	職員間の円滑交流・意思の疎通
		2	OJT推進・自己啓発・人材育成
		3	危機管理・安全管理 (事故防止, 安全対策)
		4	協働型学校評価・教育課程の編成
		5	地域連携・ネットワーク

★ **たくましい精神力** OJT で生まれる新たな学び, 高まる同僚性!

	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
1 使命感・情熱	<input type="checkbox"/> 常に児童生徒のよりよい成長を目指し, 教職への誇りを持って教育活動に当たる。		<input type="checkbox"/> 常に児童生徒のよりよい成長を目指して, 教職への誇りと高潔な教育理念を持って教育活動に当たる。
2 高い倫理観	<input type="checkbox"/> 教育公務員としての自覚を持ち, 法令等を遵守し, 誠実かつ公正に職務を遂行し, 児童生徒・保護者から不信や誤解をまねかないよう心掛ける。		<input type="checkbox"/> 教育公務員として法令を意識し遵守の気運をつくり, 誠実かつ公正に職務を遂行する風土を醸成する。
3 向上心	<input type="checkbox"/> キャリアステージに応じて求められる資質能力を意識し, 自律的に学ぶ姿勢を持ち続ける。		<input type="checkbox"/> これまでの経験を生かしながら今日的教育課題を意識し, 後進の育成に努めるとともに, 学校や自らの課題解決のため努力し続ける。

★ **豊かな人間性** OJT で生まれる新たな学び, 高まる同僚性!

	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
1 人間的な魅力	<input type="checkbox"/> 広い教養を備え, 児童生徒や保護者, 職員から信頼される人間的魅力を身に付ける。		<input type="checkbox"/> 豊かな経験に裏打ちされた高い識見を持ち, 専門性・人間性を磨き, 深い人間的魅力を身に付ける。
2 社会性・識見	<input type="checkbox"/> 保護者・地域の声に耳を傾け, 良好な関係を築き, 的確な判断のもと協働的に関わる。		<input type="checkbox"/> 学校への社会の要請を自覚し, 高い識見を持って家庭・地域との協働をリードする。
3 コミュニケーション	<input type="checkbox"/> 相手の考えや立場を尊重して受容するとともに, 自分の立場や組織を意識した建設的な考えを持ち相手と信頼関係を築こうと努める。		<input type="checkbox"/> 経験を生かしたり, 課題解決に必要な情報や技術を自ら求めたりすることで, 物事に柔軟に対応できるようにする。

★ 確かな指導力 授業づくり

OJTで生まれる新たな学び、高まる同僚性！

	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
1 カリキュラム デザイン ・確かな学力の 育成 ・自分づくり教 育 ・防災教育	<ul style="list-style-type: none"> □ 仙台版スタンダードカリキュラムを参考に児童生徒の実態に応じたカリキュラムを作成する。 □ 標準学力検査等の結果から明らかになった児童生徒の実態に基づいた授業改善を行う。 □ 日常の教育活動を自分づくり教育の視点で捉え、児童生徒に適切な指導を行う。 □ 防災教育の趣旨を理解し、児童生徒に対して適切な指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自校の特色を生かしたカリキュラムを作成する。 □ 標準学力検査等の結果に基づいた自校の改善方策を作成・実践する。 □ 小中高等学校等12年間を見通した自分づくり教育の全体計画を作成・活用し、自分づくり教育を組織的に展開する。 □ 仙台版防災教育年間指導計画を参考に、自校に適した指導計画を作成し展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自校や地域の特色に応じてカリキュラムを編成し、適切に管理する。 □ 自校の改善方策を組織的に展開し、年間指導計画の見直しや指導改善のために力を発揮する。 □ 自分づくり教育の推進に向けて校内の諸課題を整理するとともに、課題解決に向けてリーダーシップを発揮する。 □ 防災教育の質的向上や継続性を図るため、創意工夫のある指導計画を作成し展開する。
2 授業構想	<ul style="list-style-type: none"> □ 学習指導要領を理解し、学びの系統を踏まえて単元を構想する。 □ 目標や付けたい力に照らして児童生徒の実態を把握する。 □ 教材研究の大切さを理解し、積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 小中高等学校等12年間の学びの系統を踏まえて単元を構想する。 □ 児童生徒の実態や地域の特色を生かした教材開発に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 児童生徒の実態を的確に把握し、個を生かした授業を構想する。 □ 単元開発を行い、授業づくりに関する専門性を高める。
3 授業実践・ 評価・改善	<ul style="list-style-type: none"> □ 基本的な指導技術を身に付ける。 □ 指導と評価の一体化について理解し、評価規準を設定・計画する。 □ 計画に従って児童生徒の学習状況を把握し、次時の指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学習習慣を確立させ、本時(単元)の目標に迫る授業を行う。 □ 信頼性のある評価を目指し、児童生徒の意欲を喚起するよう指導を改善する。併せて、保護者に適切に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 教職員に授業力向上の視点を持って働き掛ける。 □ 指導と評価の改善につながるよう教職員に適切に助言を行う。
4 授業研究	<ul style="list-style-type: none"> □ 校内で進んで研究授業を行い、他の教職員の指導助言を受け、授業を改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 得意分野において校内、市教研等の研究授業を積極的に行い、授業力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 教職員の経験や個性を考慮しながら助言を行い、教材研究やカリキュラム開発に取り組む雰囲気を醸成する。
5 情報管理 (ICT活用)	<ul style="list-style-type: none"> □ 紙媒体を含め個人情報の取り扱いについて正しく理解する。 □ 教材作成等において、電子データを校外に持ち出す場合は、貸与されたUSBメモリを使用し、個人情報を厳正・慎重に取り扱う。 □ ICTを活用した授業実践及び情報モラルの指導ができるよう、基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 個人情報漏えいした場合の影響や被害を想定した上で、情報を適切に管理する。 □ 授業の中でICTを効果的に活用し、指導方法の改善を図りながら、児童生徒の学力向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 仙台市の「情報管理指針」に従って、自校における情報セキュリティポリシーを理解し実践に生かす。 □ 学習指導の効果を高めるICT活用のために、ICT活用と教員の指導力との関連を意識し、専門性の向上を目指して自己研さんに努める。



★ 確かな指導力 学級づくり

OJTで生まれる新たな学び、高まる同僚性！

	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
1 児童生徒理解	<input type="checkbox"/> 自分の受け持つ児童生徒にじっくり向き合い、児童生徒の正しい実態把握に努める。	<input type="checkbox"/> 自校の児童生徒の実態を把握し、個性や能力を伸ばす指導を行う。	<input type="checkbox"/> 自校の児童生徒を深く理解し、愛情を持って接することができる。 <input type="checkbox"/> 生徒指導についてリーダーシップを発揮し、後進の指導に当たる。
2 学級づくり 教室経営 組織経営	<input type="checkbox"/> 児童生徒理解に基づく学級経営を行い、よりよい学びの環境をつくる。 <input type="checkbox"/> 清潔で安全な教室環境を整える。	<input type="checkbox"/> 児童生徒理解に基づく学級経営を推進し、児童生徒同士のコミュニケーションを促進し望ましい集団をつくる。 <input type="checkbox"/> 学年・学級経営方針を反映させ、児童生徒が意欲的に学習に取り組める教室環境を整える。	<input type="checkbox"/> 自らの経験を生かし、成果と課題の把握と改善計画の実践により、学級経営を充実させ、より望ましい集団をつくる。
3 生徒指導・ 教育相談	<input type="checkbox"/> 直面する課題と問題に気づき、先輩教員等に相談しながら課題を解決するとともに児童生徒、保護者への丁寧な対応を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の発するサインを見逃すことなく予防的な対応を心掛ける。	<input type="checkbox"/> 直面する生徒指導上の課題や問題について、自校の教員と報告・連絡・相談を行いながら客観的な事実の把握に努める。	<input type="checkbox"/> 全体計画を作成したり、自校の生徒指導上の課題解決に向け、具体的方策を提案したりする。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の悩みやストレスに対応できる校内相談体制に積極的に参画する。
4 危機管理・ 安全管理	<input type="checkbox"/> いじめ防止、心のケア、食物アレルギー対応など児童生徒に係る安全配慮義務について理解する。 <input type="checkbox"/> 事故発生に伴う適切な対応の在り方を理解する。	<input type="checkbox"/> 緊急事態発生の対応について日頃から組織的な動きをイメージし、事故が起こったときに迅速に対応する。	<input type="checkbox"/> 緊急事態発生の対応について日頃から組織的な動きをイメージし、事故への迅速かつ組織的な対応を行う。
5 配慮を要する児童生徒の理解と支援	<input type="checkbox"/> 学校生活を送る上で配慮を要する児童生徒の実態を把握し、安心して過ごせる学級づくりに努める。	<input type="checkbox"/> 関係機関と連携し積極的かつ計画的に配慮を要する児童生徒支援を進める。	<input type="checkbox"/> 配慮を要する児童生徒に応じた適切な指導・支援ができるよう、校内体制の充実に向けてリーダーシップを取る。

★ 確かな指導力 学校づくり OJT いつでも、どこでも、だれとでも!

	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
1 職員間の円滑交流・意思の疎通	<ul style="list-style-type: none"> □ 「報告・連絡・相談」の機能とその方法について理解し、問題解決に向け積極的に職員間交流を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 職員間の情報共有の場を積極的に設け、後進の良き相談相手となる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 管理職や他学年・他教科及び職種の異なる職員とのパイプ役として、つながりを密にした誠実な職員間交流を行う。
2 OJT 推進・自己啓発・人材育成	<ul style="list-style-type: none"> □ 指導・助言を受けながら、事務処理のプロセスを学ぶ。 □ 心身の状態把握について理解し、生活リズムの安定と健康保持に努める。 □ 教育活動や指導力向上に向けた情報交換を積極的に行い、2年目以降は初任の良きモデルとなるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学年及び上司と連携しながら計画的かつ的確に連絡や折衝等に努める。 □ 心身の健康保持のための方法等について理解を深め、後進の相談役となる。 □ OJT を積極的に進め、切磋琢磨できる雰囲気づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 効果的な PDSI サイクルの在り方や自己研鑽の在り方について理解を深める。 □ 自己の心身の状態把握及び教職員の健康把握にも努め、職場の健康保持のための実践に努める。 □ 同僚性を育む職場の雰囲気づくりに積極的にいき、学校全体を視野に入れた人材の育成に努める。
3 危機管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> □ 校内における事故防止と安全対策をよく理解するとともに、自身の役割を理解し、迅速に対応できるよう備える。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 事故防止と安全対策をよく理解した上で、場面や状況に応じ、学年等でシミュレーションを行うなど対応に備える。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 万が一に備えた対応について、訓練シミュレーションを計画・実施するなどリーダーシップを発揮する。
4 協働型学校評価・教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> □ 協働型学校評価について理解し、PDSI を意識して取り組む。 □ 校務分掌の業務内容を理解し、組織の一員として職務遂行に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 児童生徒のよりよい姿を実現するための改善活動について理解し、保護者や地域と連携して活動する。 □ 校務分掌の遂行に努め、より効率的な職務遂行の手立ての工夫改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 積極的に職務の効率化を図り、組織全体を俯瞰した具体的な策を打ち出し、業務改善を推進する。
5 地域連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> □ 積極的に地域行事などにも参加し、地域と学校の連携について認識を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学校支援地域本部等を活用して、地域内の人や施設等の情報を的確に把握し、積極的に教育活動に反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ これまでの経験や実践を生かして、地域との信頼関係と連携を深め、地域とともに歩む学校づくりを推進する。

(3) 求められる「養護教諭」の姿と力量 2019 年度版

★専門的資質能力・実践的指導力の向上

	初任～5 年経験 (育成期)	6～15 年経験 (向上期)	16 年以上経験 (充実・発展期)
1 保健管理	<ul style="list-style-type: none"> □ 児童生徒の実態や健康課題を把握し、報告・連絡・相談をしながら発達段階に応じた対応を適切に行う。 □ 救急処置及び緊急時の対応について理解し、迅速に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 保健管理について、保健情報の収集及び分析を行い、現代的な健康課題の解決に向けて、組織で対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学校における事件事故・災害に備えた救急体制や心のケアの支援体制を整えるなど、指導的立場を果たすとともに、保健安全について学校運営に参画する。
2 保健教育	<ul style="list-style-type: none"> □ 保健教育における養護教諭の役割を理解した上で、学級担任や保健体育科の教科担任等と連携し、養護教諭の専門性を生かした保健教育を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学習指導要領、児童生徒の実態や発達段階に応じた保健教育を実践、評価、改善し、効果的に推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学校における保健安全教育についての教育課程の編成・実践・評価を通して全体計画の作成に参画する。
3 健康相談	<ul style="list-style-type: none"> □ 健康相談の基本的なプロセスを理解し、児童生徒の心身の健康状態や発達段階における課題・現代的な健康課題との関連を踏まえた健康相談を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 心身の健康相談について総合的に捉え、学校医や専門機関・保護者と連携し、健康課題について適切な対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 心身の健康相談や心のケアに関して教職員に対し、指導的役割を果たす。
4 保健室経営	<ul style="list-style-type: none"> □ 学校教育目標を理解し、児童生徒の健康課題等を踏まえた、保健室経営計画を立案し、保健室経営を適切に行う。 □ 研究会・研修会に積極的に参加し、保健室経営に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学校教育目標の実現に向けて、児童生徒の健康課題を踏まえた保健室経営を適切に行う。 □ 保健室経営についての評価を行い、改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 保健室経営について評価し、実態に応じた経営ができるよう改善を行う。 □ 学校運営について創造的なビジョンの構想やプランの構築に参画し、教育活動の活性化を図る。
5 保健組織活動	<ul style="list-style-type: none"> □ 積極的に地域行事などにも参加し、家庭や地域の関係機関等について実態を把握する。 □ 組織の一員として教職員と積極的に関わり、求められている養護教諭の役割を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 児童生徒や地域の健康課題に応じて、保健組織が主体的に活動できるよう内容の工夫、改善を図る。 □ 保護者、地域、関係機関との関わりを深め、連携・協働して対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ これまでの経験や実践を活かして、近隣の小中高校と連携し、地域レベルでの健康づくりを推進する。 □ 組織の特性を踏まえ、広い視野をもって対応力を高める。

（４）求められる「栄養教諭」の姿と力量 2019 年度版

★専門的資質能力・マネジメント力の向上 ※学校栄養職員も準ずる。

	初任～5 年経験 (育成期)	6～15 年経験 (向上期)	16 年以上経験 (充実・発展期)
1 栄養管理	<ul style="list-style-type: none"> □ 児童生徒の実態把握に努め、学校給食の役割を理解するとともに、学校給食摂取基準に基づき、食品構成を考慮した献立作成を行う。 □ 学校給食に地場産物や郷土料理等を取り入れ、「生きた教材」となる献立作成を行う。 □ 学校給食の調理・配食等の把握に努め、指導・助言を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 児童生徒の食生活の実態と地域の実情等を把握し、学校給食摂取基準に基づき、適切な栄養管理を行う。 □ 食に関する指導のねらいを明確にした魅力ある献立作成を行う。 □ 学校給食の調理・配食等について、教職員と連携を図りながら指導・助言を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 把握した児童生徒の実態に応じて、学校給食摂取基準に基づいた献立を作成し、評価・改善しながら栄養管理を行う。 □ 学校や地域の特色を生かしながら、各教科等の指導内容と関連させ、食に関する指導のねらいを明確にした献立作成を行う。 □ 栄養管理の内容を指導に生かせるよう、教職員に情報提供、指導・助言を行うなど連携を図る。
2 衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> □ 給食施設・設備、食品の取扱い、調理作業、衛生管理体制等の実態把握に努め、学校給食衛生管理基準に基づき、適切に対処する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 衛生管理責任者として、学校給食衛生管理基準に基づき、衛生管理体制や作業内容等について、評価し課題の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学校給食衛生管理基準に基づき、学校全体の衛生管理について、教職員と連携を図りながら指導・助言を行う。
3 給食の時間における指導	<ul style="list-style-type: none"> □ 年間指導計画を理解し、学校給食を教材として活用し、食に関する指導を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 年間指導計画に基づき、学級担任等と連携しながら、児童生徒の発達段階に応じた食に関する指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 年間指導計画と教科等の学習内容と学校給食を関連付けながら、体系的な食に関する指導の編成・実践・評価を一体化して行う。
4 教科等における指導	<ul style="list-style-type: none"> □ 学級担任や教科担任等と連携した食に関する指導を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 各教科等の目標を理解し、発達段階等に応じて、学校給食との関連を図りながら食に関する指導を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 食に関する指導計画を踏まえ、食に関する指導の充実について専門的立場から指導・助言を行うなど指導的役割を果たす。
5 個別的な相談指導	<ul style="list-style-type: none"> □ 児童生徒の実態把握に努め、状況に応じて相談指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 食に関する健康課題について理解し、児童生徒の実態把握に努め、個に応じた適切な相談指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 食に関する健康課題への個別的な相談指導に関する専門性を高め、保護者や教職員、専門機関と連携し、適切な対応を行う。
6 連携・調整・協働	<ul style="list-style-type: none"> □ 児童生徒の実態や学校教育目標に基づいた食に関する指導全体計画、年間指導計画を立案し、食育を推進する。 □ 家庭・地域・関係機関等と必要な連絡をとり、適切に対応を行う。 □ 研修会・研究会に積極的に参加し業務に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 児童生徒の実態や学校教育目標に基づいた食に関する指導計画についての評価・改善を図り、効果的に食育を推進し、積極的に教職員や家庭へ啓発する。 □ 家庭・地域・関係機関等との関わりを深め、連携・協働して活動する。 □ 校内外の研修会・研究会の企画運営等にも関わり、広い視野を持ち、自らの能力向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学校における食に関する指導についての教育課程の編成・実践・評価を通して全体計画の作成に参画する。 □ これまでの経験や実践を生かし、近隣の学校等と連携し地域レベルで食育の推進に努める。 □ 家庭、地域、関係機関等との連携・調整の要としての役割を果たし、ネットワーク体制を構築し指導に生かす。 □ これまでの経験を活かし、自らの実践を広く情報発信し後進の育成に努める。
7 学校における危機管理	<ul style="list-style-type: none"> □ 食中毒防止や異物混入防止、食物アレルギー対応等について理解し、組織として適切な対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 安全や衛生に配慮した環境整備を行うなど給食におけるリスク軽減に努め、危機管理の組織的な取組を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 危機を予測した未然防止の組織的な取組及び危機の早期発見、早期対応の取組に向けて工夫、改善を図る。

(5) 求められる「事務職員」の姿と力量 2019 年度版

★ 確かな業務遂行力

	初任～5 年経験 (育成期)	6～15 年経験 (向上期)	16 年以上経験 (充実・発展期)
1 学校管理	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 児童生徒・保護者・職員が快適に過ごせる環境を考える。 <input type="checkbox"/> 服務などの関係法規を理解する。 <input type="checkbox"/> 福利厚生などの内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 学校が抱える問題について、児童生徒や職員等から情報収集し改善していく。 <input type="checkbox"/> 関係法規などを十分に理解し、管理、助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自らの経験を生かし、成果と課題の把握と改善計画の実践により、学校経営に積極的に参加していく。
2 学校財務	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 正確な事務処理を心掛け、直面する課題と問題に気づき、管理職と相談しながら課題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 学年会計等や給食会計など、適正に処理されるように職員へ指導、助言する。 <input type="checkbox"/> 学校財務マネジメント能力の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 全体計画を作成したり、自校の抱える課題解決に向け、具体的方策を提案する。
3 危機管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 校内における事故防止と安全対策をよく理解するとともに、自身の役割を理解し、迅速に対応できるよう備える。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事故防止と安全対策をよく理解した上で、場面や状況に応じ、シミュレーションを行うなど対応に備える。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 万が一に備えた対応について、訓練シミュレーションを計画・実施するなどリーダーシップを発揮する。
4 コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> コンプライアンス携帯シートの内容を正しく理解し、日頃から児童生徒・保護者から不信や誤解を招くことがないよう心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 校内のコンプライアンス意識が高まるような実践を心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 校内コンプライアンス委員会等を活用し、場面や状況に応じた対応について、率先して研修を行う。
5 マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 教職員に事務業務について説明・指導する。 <input type="checkbox"/> 業務の重点化を図り、計画的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 学校の課題が何かを客観的に構造化して分析できる。 <input type="checkbox"/> 業務改善や学校経営に積極的に関わり、遂行していく。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 企画を立案・開発することができる。 <input type="checkbox"/> 自校の教育理念に基づき経営実践していくことができる。
6 協働型学校評価・教育課程の理解	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 協働型学校評価について理解し、PDSIを意識して取り組む。 <input type="checkbox"/> 校務分掌の業務内容を理解し、組織の一員として職務遂行に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 児童生徒のよりよい姿を実現するための改善活動について理解し、保護者や地域と連携して活動する。 <input type="checkbox"/> 校務分掌の遂行に努め、より効率的な職務遂行の手立ての工夫改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 積極的に職務の効率化を図り、組織全体を俯瞰した具体的な策を打ち出し、業務改善を推進する。 <input type="checkbox"/> カリキュラムマネジメントに積極的に関わり遂行していく。

★ 豊かな対人力

〔事務職員 02〕

	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
1 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> □ 対人関係をより円滑にするコミュニケーション能力の基礎を身に付ける。 □ 相手の考えや意見、立場を尊重して受容するとともに、自分の立場や組織を意識して信頼関係を築こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 相手の考えや意見、立場を尊重して受容するとともに、自分の立場や組織を意識した建設的な考えや意見を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 経験を生かしたり、課題解決に必要な情報や技術を自ら求めたりすることで、物事に柔軟に対応できるようにする。
2 職員間の円滑交流・意思の疎通	<ul style="list-style-type: none"> □ 「報告・連絡・相談」の機能とその方法について理解し、問題解決に向け積極的に職員間交流を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 職員間の情報共有の場を積極的に設け、職員の良き相談相手となる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 管理職や教員及び職種異なる職員とのパイプ役として、つながりを密にした誠実な職員間交流を行う。
3 外部折衝	<ul style="list-style-type: none"> □ 保護者、地域、関係各所に学校の事情等を適切に説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 課題に対して、当事者と交渉し、適切に対処できるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 問題解決のため、助言や関係各所と折衝し、速やかな解決に努める。

★ 自律的な行動力

	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
1 学校・地域理解 地域連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> □ 家庭や地域等の実態把握に努め、管理職の助言を得ながら業務を進める。 □ 児童生徒・保護者・地域との信頼関係を築くために、積極的に活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学校や地域の行事等にも積極的に関わり、学校や家庭の抱える課題に自律的に対応する。 □ 日頃から様々な事態への対応について準備し、周囲と協力しながら業務を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学校や地域の実態を十分に理解し、課題解決のための助言や支援に当たる。 □ 日頃から様々な事態への対応について組織的な動きをイメージし、リーダーシップを発揮して業務を遂行する。
2 児童生徒・保護者理解と支援	<ul style="list-style-type: none"> □ 経済面など配慮を要する家庭の実態を把握する。 □ 児童生徒が安心して学習に取り組める学校づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 保護者への情報提供を行う。 □ 担任と協力しながら家庭環境の実態把握に努め、適切な助言と支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 配慮を要する児童生徒や保護者に応じた適切な助言・支援ができるよう、校内体制の充実に努める。
3 OJT 推進・自己啓発 ・人材育成	<ul style="list-style-type: none"> □ 指導・助言を受けながら、事務処理のプロセスを学ぶ。 □ 自己の心身の状態把握について理解し、生活リズムの安定と健康保持に努める。 □ 教育活動支援やスキル向上に向けた情報交換を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 同僚及び管理職と連携しながら計画的かつ的確に連絡や折衝等に努める。 □ 自己の心身の健康保持のための方法等について理解を深め、後進の相談役となる。 □ OJT を積極的に進め、切磋琢磨できる雰囲気づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 組織的な動きをイメージし、リーダーシップを発揮して業務を遂行する。 □ 自己の心身の状態把握及び教職員の健康把握にも努め、職場の健康保持のための実践に努める。 □ 同僚性を育む職場の雰囲気づくりを積極的に行い、学校全体を視野に入れた人材の育成に努める。

II 各課の研修内容

1 研修内容の見方

対象・定員

希望研修に関しては、教諭・常勤講師には、養護教諭、栄養教諭、司書教諭等も含まれます。

悉皆研修に関しては、各研修の対象が明記されているので御確認ください。

- ・【悉皆】研修か【希望】研修かを確認してください。
- ・（幼）：幼稚園
- ・（中）：中学校＋中等教育学校前期課程
- ・（高）：高等学校＋中等教育学校後期課程
- ・（特）：特別支援学校
- ・（全教職員）：学校に勤務する職員全員を対象とする。

研修号 0300 〈トピック研修〉 言語活動研修

「グローバル時代に求められる対話力」を育む授業づくりを学ぼう！

対話型授業についての基本と、学びの深まり、広がり、創造をもたらすための指導の工夫について学びます。

対象・定員 【希望】教諭・常勤講師（小・中・特） 50名

回	実施日時	場 所	内 容	OJTに生きる力量
1	7月5日(金) 14:00～16:45	教育センター 第10・11 研修室	(講義 演習) 「対話型授業への教師の認識」 講師：金沢学院大学 教授 多田 孝志	授業構想 授業実践・ 評価・改善

連絡先 教育センター (251-7441)

連絡先

研修の問い合わせや欠席の連絡等は、連絡先の電話番号をお願いします。

OJTに生きる力量

「仙台版・いきいき教職員づくり研修構想～求められる教職員の姿と力量～」から、OJTに生きる力量を掲載しています。

- * 実施日時、場所、内容、留意点等をよく読んで、持ち物や研修場所の情報等を確認してください。
- * 申込の方法は、研修によって異なります。【研修一覧の申込方法】を確認してください。

《臨時的任用教員（常勤講師、非常勤講師）の研修受講について》

研修受講の申込は各所属長の判断によりますが、任用形態により全員が等しく受講できるものではありません。

○常勤講師は、教諭を対象とする希望研修が受講可能です。

ただし、「病休代替」「退職代替」の常勤講師で、夏季休業日が任用期間外となる場合は、夏季休業日の研修を受講できません。

＜常勤講師が受講できる希望研修＞

「授業づくり研修1・2」「トピック研修」「機関研修」等